

保証規定

1. 保証内容

表面の保証期間内に正常な使用状態で不具合が生じた場合は、本保証書をバッテリーお買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）へバッテリーとともにご提示ください。製品を調査した上で、お買い上げ機種または、お買い上げ機種相当品と交換させていただきます。それ以外の費はご負担ください。この場合の保証期間は、最初のお買い上げの日から算取計算とします。ただし、下記の適用除外事項に該当する場合は対象外となります。

2. 適用除外事項（下記の場合は保証対象外です。）

- （1）お買い上げ店（通信販売、インターネット販売等含む）以外のお店に保証を依頼した場合。
- （2）保証書の提示がない場合、または必要事項が記入されていない場合。
- （3）天災・火災・海難・動乱などによる故障の場合。
- （4）自動車のエンジン始動以外への用途に使用したり適合外の自動車に使用した場合。
(例) a. 自動車以外の機械の始動に使用した場合。
b. 非常用電源を目的として使用した場合。
c. 外国製自動車に使用した場合。
d. アイドリングストップ車に使用した場合（ECO、STANDARDシリーズの場合）
e. 国産軽便車に使用した場合（STANDARDシリーズの場合）
- （5）自家用乗用車以外の用途に使用された場合。
(例) a. 営業車に使用した場合。（トラック・タクシー・ハイヤー・宅配便・教習車、その他乗用車を営業目的に使用した時など）
b. レースを目的としたスポーツ、競技用途の自動車に使用した場合。
c. 緊急車両に使用した場合。（救急車・消防車・警察車両など）
d. フォークリフトなどの重機や運搬を目的とした産業用車両に使用した場合。
e. 農業用機械及び車両に使用した場合。
f. 建設用機械及び車両に使用した場合。
g. 船舶、航空機、鉄道車両など自動車以外に使用した場合。
- （6）手入れ不十分、使用者の過失または事故による場合。
(例) a. ○○端子を差に接続して充電した場合。
b. バッテリーメーカーの指定する精製水以外のものを注入した場合。
c. 補充電時に過充したり、放電状態のまま放置された場合。
d. 交換や日常点検時に電極、ふた、または端子を変形、破損させた場合。
e. 液面を適正に管理しなかった場合（過満による液漏れや液水不足による液漏れなど）。
f. 交通事故による破損、故障、機能低下の場合。
g. 雨水や洗車時の水の浸入により液漏れや液漏れした場合、または水没させた場合。
h. 車両搭載のまま長期放置使用、コンピュータメモリ負荷（過電流）により放電した場合。
1. バッテリー本体に修理、改造を加えている場合。
- （7）使用上の悪使または自動車自体の原因による場合。
(例) a. レギュレータの設定電圧が基準値を越え、過充電となった場合。
b. 自動車の電装品などの故障・欠陥により生じた場合。
c. バッテリーの搭載位置、サスペンション、充電装置などに改造が加えられた車両に使用された場合。
d. 後付装置により、アイドリングストップを実行して使用された場合。
e. アイドリングストップ機能が働かない（アイドリングストップしない）場合。（PREMIUM PLUS、IS Liteシリーズの場合）
f. 標準装備以外で過負荷になる電装品を自動車に取り付けて使用した場合。
- （8）不具合の発生したバッテリーを搭載した車両のチェックができない場合。
- （9）補充電により回復するもの。（充電により回復した場合の充電は有料となります。）エンジン始動が可能なもの。
- （10）自動車を譲渡された等により保証書記載のバッテリーの購入者と所有者が一致しない場合。保証書記載の車両以外への自動車に搭載された場合。
（11）取扱説明書記載の指示どおりに取らなかった場合。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

(2) 清掃

清掃は水で濡らせた布などを使用してください。
液口栓の排気孔を点検して泥などで詰まりがあれば、液口栓を水洗いし詰まりを除いてください。排気孔が詰まったまま使用すると、バッテリーからの発生ガスによって内部が上昇してバッテリーが破裂することがあります。

4. 3 取付金具・ケーブル端子の組み・接続ケーブルの外観点検

(1) 取付金具の点検
バッテリーが取付金具でしっかりと固定されているか点検してください。緩んでいる場合はバッテリーがしっかりと固定されるまで、取付金具のナットを締めなおしてください。

(2) ケーブル端子の組み・接続ケーブルの点検
バッテリーと車両側のケーブル端子との締付けが緩んでいる場合は、しっかりと固定されるまでケーブル端子のナットを締めなおしてください。接続ケーブルが折れ切れたり、電裂がないか、液口栓をふさいでいないか確認してください。

— 5 —

5. 1. 1 ブースターケーブルの接続方法

ブースターケーブルは車両の取扱説明書の接続方法に従って正しくご使用ください。

5. 2 バッテリーの回復充電（補充電）

△ 危険

- 充電器でバッテリーを充電する場合には、充電器添付の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。取扱いを誤るとバッテリーの引火爆発の原因となります。
- 充電する際には、火気を絶対に近づけずに通風のよい場所で行い、また、液面が UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間にあることを確認し、LOWER LEVEL 以下の場合は、UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間まで補水してください。LOWER LEVEL 以下のまま使用・充電すると引火爆発の原因となります。また、有毒ガスが発生する恐れがあります。
- 充電器の電源が ON（入）の状態では、充電ケーブルをバッテリーに接続しないでください。スパークによる引火爆発の原因となります。
- 充電中に充電クリップの取外しは、絶対にしないでください。スパークによる引火爆発の原因となります。
- 充電器に電圧の切替スイッチがある場合には、充電するバッテリーの電圧に設定してください。誤った電圧で充電すると、充電器の過熱、発火やバッテリーの引火爆発の原因となります。
- バッテリーを取り扱うときは、保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液によって失明ややけどをする恐れがあります。



△ 警告

- バッテリーを車両から取り外して充電する際には、3 項「バッテリー交換時の取扱い」に従って取外し、取付けを行ってください。手順を誤ると引火爆発の原因となります。
- バッテリーを車両に搭載したままの充電は、引火爆発や車両損傷の原因となります。やむを得ず、車両に搭載したままで充電する場合には、バッテリーに接続されている車両側のケーブル端子を取り外してください。
- 充電器に接続する際には、充電クリップをバッテリーの○端子に、次に○充電クリップをバッテリーの○端子にしっかりと接続してください。逆に接続すると、引火爆発や車両損傷の原因となります。
- 充電電流はバッテリーの要項表の充電電流以下の値、急速充電の場合は要項表の充電電流の8倍以下の値に設定してください。充電電流が過大場合には、液漏れや液漏れによる引火爆発の原因となります。

△ 注意

- 充電時の電解液温度は 45℃以下、急速充電の場合は 55℃以下にしてください。電解液温度が高くなると、バッテリーが劣化し寿命が短くなるばかりでなく、変形や液漏れの原因になる恐れがあります。
- 充電時にはバッテリーの液口栓が外せるものは取り外し、バッテリーから発生するガスが拡散しやすいようにしてください(右図)。液口栓には電解液が付着してしまつての皮膚や衣服に付けないでください。電解液によって失明ややけどをする恐れがあります。
- バッテリーには希硫酸を補充しないでください。バッテリーの寿命が短くなります。



5. 2. 1 充電方法

- (1) 充電器の電圧と電流調整ツマミが OFF（切）になっていることを確認し、充電器の電源コードをコンセントに差し込んでください。
充電器に電圧の切替スイッチがある場合には、充電するバッテリーの公称電圧と同じ電圧に設定してください。2 個のバッテリーを同時に充電する場合は、24V 用の充電器を使用して直列に接続してください。
- (2) ○充電クリップをバッテリーの○端子に、次に○充電クリップをバッテリーの○端子に確実に接続してください。タイマー付きの場合は、充電時間を充電器の取扱説明書に従って設定し、急速充電では 30 分以内にしてください。
- (3) 充電器の電源を ON（入）にしてください。次に、電流調整ツマミを回して充電電流をバッテリーの要項表の充電電流以下の値に調整してください。充電中に電解液温度が 45℃を超える場合は、充電電流を下げるか充電を一時停止してください。急速充電の場合は、電解液温度が 55℃を超える時に同様の処置をしてください。
- (4) 充電完了の目安は、充電時間約 5～10 時間でバッテリーの各セルから盛んにガスが発生している状態です。電圧計、比重計をお持ちの場合は、充電中に端子電圧が 15.0V 以上、PREMIUM PLUS・IS Lite シリーズの場合は電解液比重が 1.280（20℃）以上、ECO・STANDARD シリーズの場合は電解液比重が 1.270（20℃）以上になっていることを確認してください。
- (5) 充電終了後には充電器の電流調整ツマミを OFF（切）にし、次に充電器の電源を OFF（切）にしてください。
- (6) バッテリーの○端子から○充電クリップを外し、その後○充電クリップを取り外してください。
- (7) 充電器の電源コードを、コンセントから外してください。
- (8) バッテリーの電解液面が UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間にあることを確認し、液口栓を緩みがないようにしっかりと締めなおしてください。バッテリーの外観が汚れている場合には、液口栓から水が入らないようにして水洗いする水で濡らした布で清掃してください。
- (9) 急速充電は、長期放置したバッテリーを回復させるための充電には適当ではありません。

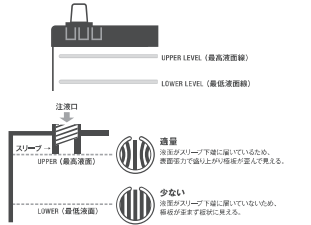
— 7 —

4. 4 電解液面高さの点検と補水

- (1) バッテリーの側面から液面点検する場合
水で濡らした布で液面線の周囲を清掃し、液面が UPPER LEVEL（最高液面線）と LOWER LEVEL（最低液面線）の間にあることを確認してください。乾いた布で清掃すると静電気により引火爆発の原因となります。
液面が UPPER LEVEL よりも LOWER LEVEL に近い場合は、液口栓を緩めて取り外し、直ちに UPPER LEVEL まで精製水（例：市販のバッテリー補充液など）を補充してください。
補充後は、液口栓をしっかりと締めなおしてください。
- (2) バッテリーの側面から液面点検ができない場合または側面に UPPER LEVEL 表示がない場合
バッテリー上面にある液口栓を外して注液口をのぞき、液面点検してください。スリーブに液面が届いていないときは、必ずスリーブの下端まで精製水（例：市販のバッテリー補充液など）を補充してください。

★アドバイス

万一、UPPER LEVEL またはスリーブの下端を超えて補水してしまつた場合は、UPPER LEVEL またはスリーブの下端までスポイトなどで電解液を抜き取ってください。抜き取った電解液は、重曹（重炭酸ソーダ）などで中和した後、多量の水で洗い流してください。または、バッテリーメーカーにご相談ください。
バッテリー内に白い沈殿物及び電解液の白い濁りが認められる場合がありますが、品質には問題ありません。



※インジケータ（バッテリーの放電状態、電解液面状態の表示装置）付きバッテリーは、インジケータで簡単にバッテリーの状態を確認することができます。インジケータの見方はバッテリー上面（ふた）の表示ラベルに記載しています。但し、インジケータによるバッテリーの状態確認は代表セルしか確認していないため、あくまで目安としてください。

4. 5 車両を長期間使用しない時の処置

車両を長期間使用しない場合は、3. 3 項「古いバッテリーの取外し」に従ってバッテリーを車両から取外して風通しのよい火気のない屋内に保管し、端子電圧 12.5V 以下または PREMIUM PLUS・IS Lite シリーズの場合は電解液比重 1.250（20℃）以下、ECO・STANDARD シリーズの場合は電解液比重 1.240（20℃）以下を目安として 5. 2 項「回復充電」に従って補充電を行ってください。
バッテリーを接続したままにすると、時計やコンピュータのバックアップに少しずつ電気を消費しますので、車載のまま保管する場合もバッテリーの○端子から車両側のケーブル端子を外しておくことをお勧めします。ただし、バッテリーの接続を外しますと、車両のメモリ機能が消去されますのでご注意ください。

5. バッテリー放電時の処置

車両のライトなどの消し忘れや車両を長期放置した場合には、バッテリーが放電してエンジン始動が困難になることがあります（以下「バッテリー上がり」と言います）。このような場合の処置は、次の事項に注意して行ってください。

5. 1 ブースターケーブルによるエンジン始動

△ 危険

- 救済車を依頼してブースターケーブルでエンジンを始動させる場合には、車両及びバッテリー添付の取扱説明書に従い正しい手順で行ってください。取扱いを誤ると、引火爆発や車両損傷の原因となります。
- 火気を近づけないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火爆発する原因となります。
- 保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーの電解液によって失明ややけどをする恐れがあります。

△ 警告

- ブースターケーブルの取付け、取外し時には、救済車のエンジンを止めてください。ケーブルや衣服などが冷却ファンに絡めたり、ベルトに巻き込まれて、けがの原因となります。
- 最後のクリップ接続時にスパークが発生しますので、ケーブルクリップは、バッテリーから離れているエンジン本体などの金属部分に接続してください。バッテリーからの水素ガスに引火爆発する原因となります。
- ケーブル接続の際は、バッテリーの○端子と○端子をケーブルクリップでショートさせないでください。スパークによる引火爆発の原因となります。
- 救済車のバッテリーは、バッテリー上がり車と同じ電圧（12V 仕様か、24V 仕様かを確認）で同等の性能ランクのバッテリーを使用してください。取扱いを誤ると、引火爆発や車両損傷の原因となります。
- ブースターケーブルはバッテリーの性能ランクに適したものを使用し、ブースターケーブルに、破損および腐食などの異常がないことを点検してください。ケーブル損傷の原因となります。
- ケーブルクリップは、緩みがないようにしっかりと固定してください。
- 救済車とバッテリーあがり車の車体を接触させないよう注意してください。

※エンジンルーム内にバッテリーがない車両は、その車両の取扱説明書に従ってください。また、エンジンルーム内にバッテリーが搭載されている乗用車は、救済車には向きません。

※エンジン始動後は速やかにガソリンスタンド、バッテリーお買い上げ店またはカーディーラーなどで点検を受けてください。

— 6 —

6. 使用済みバッテリーの処置

△ 危険

- 使用済みバッテリーには、まだ電気エネルギーが残っています。金属工具などでバッテリーの○端子と○端子とをショートさせたり、火気を近づけたりしないでください。スパークによる引火爆発や焼損の原因となります。
- 使用済みのバッテリーは、子供などが手を触れない場所に保管してください。電解液の付着によって失明、やけどの原因となります。
- バッテリーを分解、改造、破壊しないでください。液漏れ、爆発などの原因及び失明、やけどの原因となります。

△ 警告

- 使用済みバッテリーを横倒しのまま保管しないでください。漏れた電解液により周囲を損傷させるだけでなく、漏電などによって火災の原因となります。

△ 注意

- 使用済みバッテリーは原材料をリサイクルします。そのまゝ破壊せず、新しいバッテリーを購入されたお店にご相談ください。

■バッテリーの寿命

寿命とは、使用中にその容量が低下してきて状態をいいます。

★寿命は、自動車の使い方や点検保守の頻度などで変わってきます。

(例) ●自動車の使用頻度（走行距離が少なくても、多くても影響される）

- 充電不足の状態（エアコン、オーディオなどの電気機器の使用頻度が多い）
（ファンベルトの緩み）（オルタネータの故障）
（バッテリーの端子締付け部の緩み）

- 日常点検の不備（バッテリーの電解液面点検時などに、補水を怠り、液漏れになったもの）

- 保守の不備（ランプの消し忘れなどによりバッテリーあがりを起こした場合）

★バッテリーの寿命末期には、次のような現象が出てくる可能性があります。

- スターターモーターの回転が、弱くて鈍い。
- アクセルの踏み方で、ヘッドランプの明るさ変わる。
- 電解液の減り方が早く、電解液面や電解液比重が落ちつく。

これらの現象が現れた場合には、5.2 項よりバッテリーを補充電してください。

補充電しても性能が回復しない時は、バッテリーの交換をおすすめします。

要 項 表

		公称電圧 12V			
型 式 ※1	充電電流 (A) ※2	インジケータの有無	アイドリング時の電圧	過充電	過電圧
PREMIUM PLUS	K-42R/B19R,K-42/B19L	3.5			
	M-55R/B20R,M-55/B20L	4.0			
	N-70R/B24R,N-70/B24L	4.5			
	Q-100R/D23R,Q-110/D23L	6.5	有	○	○
	S-115R/D28R,S-115/D26L	8.0			
IS Lite	T-125R/D31R,T-125/D31L	9.0			
	M-42R/B20R,M-42/B20L	4.0	無	○	○
	40B19R/L	3.5			
	44B19R/L	4.0			
	44B20R/L	4.0			
ECO	60B24R/L	4.5	有	×	○
	80D23R/L	6.5			
	90D26R/L	6.5			
	40B19R/L	3.5			
	55B24R/L	4.5			
STANDARD	75D23R/L	6.5	無	×	○
	85D26R/L	6.5			
	95D31R/L	8.0			

※1 製品型式は、業界の慣例として JIS に準拠した表記としていますが JIS の性能保証を証するものではありません。

※2 5.2 項「バッテリーの回復充電（補充電）」のための充電電流の目安です。

エナジーウィズ株式会社



当社WEBサイトはこちら

製品に関する問い合わせは、下記にご連絡ください。
エナジーウィズ自動車電池コールセンター
TEL：0120-513-573（フリーダイヤル 携帯電話可）
（受付：月～金（年末年始、GW、夏休み休業等を除く）9時～17時30分）
〒369-0297 埼玉県深谷市岡2200
製品情報は下記サイトでご確認いただけます。
<https://www.energy-with.com>
※製品不具合や保証に関するお問い合わせは、お買い上げ店にご相談ください。

取扱説明書作成年月 2023 年 6 月

No. T S 2 4 5 D

PRINTED IN JAPAN

— 8 —